

平成29年度 第1回 東京都地域医療構想調整会議（島しょ）

平成29年8月21日（月曜日）会場：都庁第一本庁舎27階 島しょ保健所内会議室

（意見交換）医療連携の強化・退院支援の充実

<テーマ1> 島しょ基幹病院（広尾病院）との連携を強化するための方策について

<テーマ2> 基幹病院との連携以外で、島しょの医療需要に対応していく方策について

<テーマ1>

- 島しょの診療所は自治医大からの派遣の医師が多いことから、3月末で医師が変わる。その際に広尾病院に入院している患者であっても、医師間での引き継ぎ漏れがないよう、広尾病院からも3月末時点で島しょから受け入れている患者の情報を提供して欲しい。（新島）
- 広尾病院に定期的に受診している患者であっても、紹介状のやり取りをきちんとできればよい。（紹介状がないまま受診しているのか、受診中断となっているのかが把握できない。）（新島）
- 島しょで実施できない検査を、広尾病院に外来受診する際に一緒に実施できるような体制があれば助かる。（新島）
- 広尾病院から退院する場合、転院ではなく自宅退院扱いとなるため、看護サマリーがついていないが、島での在宅医療の提供方法を考えるためにも看護サマリーを提供して欲しい。（神津島）
- 代診医を広尾病院から積極的に派遣して欲しい。（青ヶ島）
- 広尾病院の各診療科の先生と直接連携を取ることで対応してもらえる手術や検査等があれば、定期的に情報提供をお願いしたい。（小笠原）
- 広尾病院からの退院時に、一度、内地で転院した上で島に戻ることもあるかと思う。島の診療所では、転院した事実がわからないことも多いため、広尾病院から転院した際に、情報提供してもらえると助かる。（小笠原）
- 青ヶ島には、ケアマネが不在で、かつ、介護認定を行う職員も他の業務と兼任している。広尾病院に入院中にADLが落ちると、介護認定等を行う体制を整えるところから対応しなければならないため、逐一情報提供いただきたい。（青ヶ島）

<テーマ2>

- 患者のかかりつけの病院等、広尾病院以外の病院へ搬送する際、島しょの搬送システムから説明する必要が生じ、時間がかかる。島しょの協力病院等に対して、島の患者搬送システムについて周知して欲しい。（小笠原）
- 障がいをもつ子供を島で診ることが増えてきた。医師以外の職種によるフォローが必要な場合も多く、広尾病院や小児総合医療センターに適宜紹介を行っているが、継続した診療が提供できていない状況ではない。障がいをもつ子供に対する継続した診療体制の構築に向けた検討をお願いしたい。（小笠原）

平成29年度 第2回東京都地域医療構想調整会議／在宅療養ワーキング（島しょ）  
平成30年1月30日（火曜日）会場：都庁第一本庁舎27階 島しょ保健所内会議室

＜意見交換＞島内における在宅療養支援の取組について

（視点）島内での在宅療養支援を行うにあたっての課題

島内での医療－介護の情報共有の方法について

今後、在宅療養を希望する患者が増えた際の対応について

＜島内での在宅療養支援を行うにあたっての課題＞

- 集落が点在しており、ケアマネでも完全に対象者を把握できているかどうかわからない（三宅村）
- 転院先がない・看る人がいない等で対応に苦慮することが時折ある（大島町）
- 退院できる事と、島でADLを保って暮らせることとのギャップは大きいと思う（小笠原村）
- 島の状況を考慮せず本土医療機関が島へ退院させてしまっていることもある（広尾病院）
- 老老介護の場合で、介護者に疾病が見つかった際の対応に苦慮する（神津島村）
- 看取り段階での在宅診療は行っているが、その他の疾患に対しては行っていない（小笠原村）
- 完全独居の方の看取りは難しいと思う（新島村）
- 介護者がいない場合（独居の場合）の終末期対応は断っている（三宅村）
- ホームヘルパーを入れて独居の方へ対応したとしても、休日夜間の対応は難しい（三宅村）
- 急にADLが落ちた方への緊急ショートステイが複数人重なると対応できない（三宅村）
- 式根島含め、デイサービスにも対応できていない状況（新島村）
- 訪問リハは数十人対応しており、需要に追い付かなくなりつつある（三宅村）

＜島内での医療－介護の情報共有の方法について＞

- 必要に応じた集まりやケアマネとの連絡など、随時対応している（新島村）
- 月1回の在宅サービス支援会議にて、急にADLが落ちた方について取上げている（神津島村）
- 月に一度、医療ケア会議にて今後問題が生じそうな人の把握と対応について話し合いをしている。  
また、内地から島内に帰ってくるケースをキャッチした場合は同じく話し合っている（三宅村）
- ICTを活用した情報共有を進めている（三宅村）

＜今後、在宅療養を希望する患者が増えた際の対応について＞

- 医療系の人材は充足しているが、将来への備えが出来る状況ではない（新島村・神津島村）
- 町として、現在、在宅に関する施策は行っていない（八丈島）
- 今後は離島同士の連携や、本土における急性期対応以外の入院についても検討してもらえるよ  
とよい（青ヶ島村・三宅村）
- 本土や八丈島の施設等とも連携を取っていきたい（青ヶ島村）
- ADL低下の防止のためにも通所リハを行った方がよいのではないかと考えている（三宅村）
- 将来的には理学療法士が雇えるといい（三宅村）
- 医師・看護師1人の診療所であるため、家族への意識づけが大切だと思っている（青ヶ島村）